夕刊
磐城新聞
十二月十六日發行
定價 一部金五錢 一ヶ月金六拾五錢（郵稅拾五錢）
廣告料金 一行金六拾錢 營業案内一行金九拾錢
發行所 磐城新聞合資會社 電話五六四番
（日曜祭日翌日休刊）

精神日本の再建 三

文部政務次官 東郷實

二、建國の大精神に甦れ

然らば我が國に於て斯の如き無條件な外國模倣が恐るべき結果を醸すと云ふことに從來氣が付いて居なかつたであらうかを考へて見るとさうでない。我が國に於ても外國模倣の恐るべきを常に我々國民に警告した所の幾多の達眼の士があつたのであるが、其中で私は此處に申して見たいと思ふことは、西郷南洲先生が南洲遺訓と云ふものを殘されて居るが、其中に外國模倣の恐るべきことを精神方面思想方面並に經濟方面、物質方面から我々國民に警告して居る。思想、精神方面に於て何と言つて居られるかといふと『廣く各國の制度を採り、開明に進まむとならば、先づ我が國の本體を据ゑ、風敎を張り而して後徐かに彼の長所を斟酌するもので、然らずして猥りに彼に倣ひなば國體は衰頽し風敎は萎靡して匡救す可からず、終に彼の制を受くるに至らんとす』斯う言つて居られる。我々が廣く世界に智識を求め大いに外國の進んだ制度を取るといふことは無論やらなければならぬことであるが、併しながら南洲先生の言はれて居るやうに夫をやるには先づ以て我々は日本人である。我々の作つて居る所の國家は日本の國家であると云ふ此認識をはつきりし、大いに風敎を張つてさうして然る後に其長所を取るべきものを取ると云ふことにしなければ、遂には我が日本が精神的思想的に彼等外國人の支配を受けるものであらうと云つた南洲翁の五十餘年前の憂へを私は我が國の現狀に鑑みて誠に痛嘆せざるを得ないのである。更に先生は物質經濟方面に就ては『猥りに彼の盛大を羨み、利害得失を論せず、家屋の構造より玩弄物に至るまで一々外國を仰ぎ奢侈の風を長じ財用を冗費せば國力は疲弊し人心浮薄に流れ、結局日本身代限りの外あるまじきなり』と斯う言つて居られる。此事實と今日の經濟上の行詰りとを我々が併せて考へて見た時に實に其通りであると思ふ。我々は何も外國の品物を絶對に排斥するものでない。併しながら一も二もなく舶來品を大いに尊重して行くと云ふことになるとそこに奢侈の風が生じ、財用は浪費され人心は浮薄になり、我國個有の質實剛健の美風と云ふものが地を拂つて去ると云ふことになる、國民は消費には頗ぶる熱心であるが汗を流して生産に努めると云ふ點に於て缺けて居ると云ふのが今日の現狀であると私は考へる。故に貿易は逆調に逆調を重ねて來て居るし、此逆調を是正せずして我が國の國際貸借の關係を有利ならしめむとするもそれは不可能である。或は消費節約を唱へると云ふことも一つの方法であるかも知らぬが、私はもつと進んで我々の必要なものは我々日本人の手に依つて內地に於て之を生産し、更に其剰れる所を外に向つて賣ると云ふ此積極的の努力と云ふものが今日の經濟の行詰を打開する根本であらうと考へるのである。

磐新歌壇

小山田滋選

田部君子

（田舍より幼き妹始めて來るに）

○友もなく日ねもすくらす妹の鶏とあそぶをいつおぼえたる

○うらゝかに晴れたる朝を家にゐて一人あそべる妹哀れ

○ふるさとの山の名などもよみこみてうたをうたへるこのごろの妹

○床たゝむ二階の窓に見えてゐて赤井の嶽の白雪の峯

新年懸賞歌募集

一、題 水、雪、
一人三首以內投稿（官製ハガキ使用のこと）
二、締切 十二月二十五日頃
三、發表 一月一日磐城新聞紙上
四、選者 小山田滋
五、賞品 一等（置時計）一名 二等（本紙三ヶ月購讀券）二名 三等（本社メダル）三名 秀逸（本紙一ヶ月購讀券）十名

時代發語

○自畵自讃…………（俚諺）

時には良いものである。彼の陳平は卑賤の身であつたが常に自ら天下の宰相たる技倆があると誇つてゐたが竟に果して後に宰相となつたのである…………

踏切

深谷耕二

交錯する
人達の流れを兩斷して過ぎる
抗し得ない冷たい力がある
堰かれた一群と一群
激しい意慾をへし折り
詮らめを強いるもの—
不思議な磁力を持つ通過
人達は危い均衡で立つて
居る

拈華微笑

◇劍とペンと偉大な社會の制裁力が醫酒歡談。正に天下の壯觀だ ◇平の鐵道關係へ

流れ出た賞與三萬六千圓、落ち溢れ果して如何 ◇日曜半休を休むなんて全体食ふ事を休む人達に濟まなかつた譯

◇握り飯半分を貧友に恵む女生。救濟金を斷る家 ◇カレンダーあと十五枚 ○……○

泣きじやツくり

田中義種

じからかれて
大きなお口で
泣いてた坊や
しやツくり
しやツくり
泣きじやツくり
じやツくり
じやツくり
じやツくりこ
砂場の上で遊んでた。
しやツくり
じやツくり
じやツくり
しやツくり
泣きじやツくり
けれども坊やは
嬉しさう。

〔社〕會〔の〕今〔日〕

12 17日 △總目付を置く大目付の始（寛永一〇）△コスト大尉七千八百キロ米繼續飛行の世界記錄を作る（昭和四）△露國鮮銀浦鹽支店の閉鎖を命す（同五）△兌換停止緊急勅令公布△張學良、陸海軍副司令を辭す△南京の學生團中央黨部を占領す（同六）

○

老妻の蒲團仕立や初霰　箕泊

曲り曲つた生活をして居る俺の前に、まつすぐ高いこれは煙突　細谷源太郎

講談 お蘭陀お蝶 (29)

渡邊默禪作　布施長春畫

跡から追々と村の義勇兵が馳つけて來る。名主や御役人目明しなども驅加はる。炊出しの握飯もかつぎ込まれる。澁樽の鏡を拔いて勢ひをつける時分には、早や百人餘りの頭數、いよ〱もつて大げさの山狩になつた。

が、困つたことには前面の懸崖一つが障礙物になつて、どうしても賊の根據地を衝くことが能きない、右に廻ると五六間幅の溪河が深い木立を潛つて流れてゐるが、矢を射るやうな急灘で爾もらんへきの底知れぬ淵見てさへ慄然とするくらゐな龍のすみかだ、左には一入峻しく傾斜した蛇紋岩が屏風のやうに突立つて、その上へ倒さまに枝を垂れた老松の人を嘲ける如く山風に嘯くばかり、猿だに足を懸くる餘地がない。

村の太郎作と馬鹿にしても、玄武門破りの原田の一人や二人ぐらゐは屹とゐる『何だ、こウ上れなくて何うするだ、見てろ、俺が先陣してやるだから』

勇士なきにしも非ずだ、忽ち躍り出した壯丁三人、用意の繩梯子を腰に結びつけて、短かい鳶口を押取りながら崖下に進み寄つた、

一同の視線はひとしくそれに集中した。

ガッキと鳶を岩の割れ目に打込んで、手懸足場をこしらへこしらへ攀上つた。手間はとれるが甚麼やら成功しさうである。攻撃軍はうまい〱と手を拍いて賜めてゐた。

纔かに二丈も登りつめたかと思ふ頃、ごろ〱〱づと雷のやうな響がした。

『ソレ石だッ』

叫んで肝を冷す刹那ズドーン……消魂ましい銃音が谿谿にとどろき渡つた。きやつといふ聲の下から一人は石もろとも眞逆さまになつて顛がり落ち、一人は肩を肱へ射拔かれて！ころ〱〱、一人は是れに喫驚してズッ〱と辷ろやうに逃げ下りた、三人組の原田重吉君も美事に失敗してからは、誰一人冒險の任務にあたる者がない。只手を束ねてぼかりと口を—殺う此の上は一月でも一年でも根競べの睨み合をして、兵糧責をするより外に術がないといふことになつた！。

坂本龍馬はこんな面白いことはないと、後から來た浮橋家の雜掌波多野左兵衞と一緒に酒を飮みながら悠々と見物してゐたが、腑甲斐ない村人の攻振と、小面憎い賊の仕打とにとう〱辛抱し切れなくなつて刀を押取さま、憤然として立揚つた。

成るべく姿を見せないやうに、林の中を潛り拔けて波多野と二人連で崖の右へ廻つた、さうして溪川づたいに三町ばかり奥へ這入ると、不動瀞といふ三丈ばかりの飛泉が轟々と谷をゆすつて物凄じく鳴動してゐる瀧壺に立つ泡沫は雪か花か亂點飛舞、くる〱と淵に渦くのが水のやうな冷氣を噴いてそゞろに髮の寒さを覺ゆるばかり、是れより上は辿るべき蹊だにないのである。

『よしッ』

その瀧壺をぢッと覗き込んでゐた龍馬は、自得するもののやうに頷いて

『波多野の叔父上、拙者は此處から對岸へ渉つて賊の搦手から不意に攻めかけて遣らうかと存じまするが若し彼の鐵梯子が下りたならば拙者が首尾よく斬込んだものと御承知の上、百姓共を繰込ませて下さるやうお手配を願ひたい』

言つてる下から衣裳と野袴を脱いで稽古着一枚の身輕になつて、兩刀を肩から横襷に背負上げた。

ラヂオ

仙臺 JOHK …十七日…（土曜）…

△前七、〇〇A ラヂオ體操
八、〇〇
△九、〇〇 氣象
△九、一〇H 料理獻立（雞卵の蕪菁かけ）中倉根うめ子
日用品値段
△一〇、三〇A 家庭講座（子供と砂糖）竹內茂代
△正午 A 時報 氣象
△後〇、〇五H 謠曲（籠太鼓）武田喜夫
△〇、四〇A ニュース
△二、〇〇A 婦人講座（日本婦人とその社會的活動職業線に立つた町家の婦人）文學博士中村孝也
△三、四〇A 氣象
△四、〇〇 ニュース
△五、〇〇A 受驗講座（漢文）塚本哲三
△六、〇〇H（子供の時間）童謠と唱歌 アンカ幼稚園々兒 伴奏…中川長子
△六、二〇A コドモのシンブン 關屋五十二
△六、二五 英語講座（中等科）増田綱
△六、五五 カレント、トピックス ハロルド、バーマー
△七、〇〇 ニュース 氣象
△七、三〇 講演（藝術と國民性）三高教授林久男
△八、〇〇B ヴアイオリンピアノ二重奏…名曲演奏 ヴアイオリン…アレキサンダー・モギレフスキー ピアノ…レオ、シロタ
△八、三〇B 端唄と流行歌（一、縁かいな 二、戀の東京 三、佐渡おけさ 四、柳の雨 五、米山甚句 六、島の娘）葭町勝太郎
△八、五〇A ラヂオレヴュー（砂漠のメリーゴーラウンド）堀井英一 外
△九、三〇A 時報
△九、三一A 滿洲より 協和會理事長張燕卿
ニュース 氣象

江戸前

當店に於て自慢の 大蒲燒 割烹 壽司 開業以來

特に『都壽司』は江戸一流の職人を迎へて食通の皆樣方に御賞讃を頂きお蔭樣にて大繁昌をいたして居ります。
都壽司は魚榮と御思召して……
御ひゐき下さる樣御願申上げます。

田町 魚榮 電話四二四番

人は武士…花は櫻よ
かをりは梅よ…………
うなぎ料理は江戸川よ
うなぎに御用の節は！
是非專門の……
江戸川へ
平町二丁目 電話五四七

開業廣告
外科 全般科 內科 小兒科
醫學博士 渡部義夫
女醫 渡部きい子
平町田町大通 渡部外科 電話二七七
（入院應需）

耳鼻咽喉科專門
平町田町七〇番地 山內醫院
醫學士 山內亨吉 電話六九一番
入院隨意 病室完備

內科、小兒科 花柳病科 入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町 電話平長五〇七番

淋藥界の最高權威
無効返金（二日間服効なき時は殘藥引替に全部返金す）
一週間…赤箱—金五圓 黑箱—金參圓
世界の名湯別府温泉で名高い。岩里家の家傳秘藥は男女血ウミ、コシケ、淋病消渇に奇績的効果ありどんな頑固な痳疾でも短時日に根治が出來且つ再發することなく注射や他藥で治らぬ諸賢は最後の藥として迷はず……名發別府淋藥の御服用に依り幸福を得られん事を希望致します。

別府皮膚藥 金三十錢 金六十錢
天下の名湯別府温泉のラヂウム含有の精に各病醫院及最高學府の處方劑集め大成せる皮膚病特効藥であります、たむし、いんきん、みつむし、なます、しらくも等其他皮膚病に卓効あり。
九州別府市鶴乃園 岩里天然堂
代理店 平町三丁目北裏通り 渡邊いと
（特約店募集）

夜間診療
胃腸 十二指腸虫病 專門 內科部
梅毒 淋病 皮膚病 婦人病 專門 外科部
松村胃腸科醫院
（平町南町電一〇七番）

漆器も需要季に入り俄然暴騰致しました
絶好無二の御買時
在庫品見越買附品豊富
◎平素ノ御引立ヲ衷心ヨリ感謝シ
◎大奉仕精神ヲ徹底セシムベク
○在庫品全部ノ 從前値段販賣ノ一大奉仕
お正月の御用意お屠蘇具が種々入荷致しました。
專門漆器平町に只一軒の………
ドコヨリモ。ヨイシナヲ……
ドコヨリモ。ヤスクウル。ヌリモノミセ
各國産漆器專門御小賣
共榮漆器店
（平町2町目36元郵便局裏通）
店員募集 十二三才…小店員 三十才迄…外交員 優遇す

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋 和洋銅物
（久）釜屋商店
磐城國平町五丁目 電話九番 九九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は（久）の生命なり

忘年會 つるぎとペンが一堂に 筆劍合同の懇親宴會
昨夜住吉屋本店樓上大廣間の盛況

劍とペンとの提携。恒例筆劍合同忘年會は昨十五日午後六時から平町住吉屋本店に於て開催、川崎常磐毎日社長の開餅にて宴に入つたが出席左記六十一名、その顏觸れから云つて地方に於ける此種宴會中の斷然豪華版と云ふべく非常な盛會であつた

（裁判所）中島監督、荒井豫審、隅口、竹內各判事、志賀監督書記（檢事局）小林、上田兩檢事、緒形監督、桑名、高木兩書記（刑務支所）本庄支所長（警察署）小田部署長、小林、菊地、小野寺各警部補、櫛田、圓通、橋本、佐々木、笠原、福田、渡部、十二所、安藤、保住各部長、大貫、樋口、伊藤各高等係、柏木、大谷草野各司法係（炭鑛）菅原磐炭鑛業所長、濱崎同事務部長、小島同勞務課長、吉田入山坑務所長、小山田同人事係長、若松同庶務係長、下野古河鑛業所長、安孫子同庶務係長、前松同人事係長（其他緣故者）水野元郡長、元署長靑沼町長、同安齊辯護士、諸橋信用組合長、小原七七支店長（新聞記者）河瀨東朗、野澤時事、金子報知、坂本讀賣、大島河北、大竹、赤津各いはらき、粟屋、吉田各民報、馬目民友、川崎常磐毎日、岡田時報、蓮沼、柏木、安齊、國井各本社

下水工事難
財源に惱む小名濱

小名濱町では同町から泉村に至る縣道の下水工事を過般來縣に認可申請中であつたが此程工費二千五百圓內一千圓の地元負擔で認可されたので昨十五日午後一時から土木委員會を開き負擔金の捻出方法に就て協議したが財源難の折柄でもあり且は商工修築費地元負擔二十二萬五千圓及小學校增築二萬五千圓の捻出に行き惱んで居る際だけに之が捻出の方法付かず結局沿線民から極力寄附を仰ぐ事となつた

年迫る 非常時日本の冬を花咲く
狂ひは終に自然界に迄 オール嚔珍漢

……（〇）……

▽△ 一九三二年のゴールに入つた、滿洲事變だ、國際聯盟總會だ、農村は飢に泣き商工業者は困惑に呻く……

▽△ 腹背の出來事。非常時ニツポンの年の瀨もドン／＼迫つて街行く人々の顏面神經がいやに尖鋭化してる。

『非常時』は人間界にのみ限られた現今の常套語と思ひの外、此れは意外、自然界にも非常時の現出だ…。最近松ヶ岡公園の西向にある良善寺の古池に『あやめ』二、三輪が誇らし氣に咲き出し、白河町のお醫者さんの櫻も零下八度の寒氣をわざ笑ふ如く開花したとあり何れもその奇觀に人を集めて居るさうな。

▽△ 人間界は云ふに及ばず：『天の怒り』過般の一大ストーム襲來に次ぐに三十三年一度の流星の雨を展開、更に亦植物界に未曾有の奇觀を呈したとは、非常時！そは、地はおろか宇宙を一つに包んでの現象である。（玲光生）

半休日曜を廢して 徵稅に全力傾注
十萬の完納を期する平町

今月が納期となつて居る平町の縣稅及び町稅の賦課額は人員二萬百二人金額九萬八千二百餘圓に上りその徵收容易ならざるものあるので二十四日の土曜半休、二十五日の日曜を廢し平日通り午後三時迄特別取扱ひをなす事となつた

平在住の鐵道員へ ボーナス三萬六千圓
五百三十一人にバラ撒かれる

平町在住鐵道關係のボーナスは昨十五日夫々支給されたが最低八割から最高十六割で人員金額左の如く何れも恵比須顏である

△平驛一五七人一〇、四三四圓△機關庫三三四人二三、六八八圓△保線區四〇人二、〇〇〇圓

町村制實施以來の 田子氏依然重任か
今十六日村長選擧村會

三坂、澤渡組合村では今十六日午後一時から村會を開き田子英吉村長滿期退職に依る後任問題に就て協議したが結局同氏再選に決定する模樣である、因に同氏は明治二十二年町村制實施以來連綿して今日に及べる人である

石城郡下荒地調査
免租申請準備進む

郡下各町村の荒地免租出願調査は昨十五日を以て完了する手順となつてゐたが未納整理で繁忙を極め兩三日遲れる模樣であるが被害の最も甚大な平窪を始め二百四五十町歩に達し本稅丈けで千四五百圓に上る見込であると

春の裝ひを凝らす 磐城高女の溫室
亂れ咲く櫻草、水仙其他

磐城高女の溫室內にはこの寒さにもめげずシネラリヤ、櫻草、水仙の可憐な春の花が四年生三十名からなる園藝部員の毎水曜の手入にすく／＼と伸びて亂れ咲いてゐるが最も多いのは櫻草の百鉢である、尙此溫室は昭和二年創立十五周年記念として卒業生が寄附したものであると

豐間靑年團 義捐金募集

豐間靑年團では遭難漁夫十六名の遺族救濟のため三百圓の豫定で目下一般から寄附を仰いで居るが昨十五日迄に百八十餘圓に達した

二間四方の土砂崩れ 作業中の人夫埋まる
永戸村で炎害扶助法適用

永戸村渡戸農平山仁助（三三）は匡救土木工事に雇はれ昨十五日午前十時頃同村宿藁谷新次郎地內崖下で土砂採取作業中突如二十尺の高所より二間四方の土砂崩壞し顏面其他に全治三週間の重傷を負ひ匡救事業最初の怪我人として今十六日荻野村長から平署に勞働者災害扶助法適用の旨報告あつた

鮪漁場槪況
磐城丸調査發表

縣立小名濱水產試驗場指導船磐城丸の第一回鮪漁場調査は去月二十三日出帆左記八ヶ所を調査し十四日朝歸港した

（第一）鹽谷崎東微南四分の一南六百浬水溫二十一度二分（マカヂキ二本、メバチ十四本、キワダ一本、ヨシキリ三十本を漁獲）（第二）鹽谷崎東八分七南五百三浬水溫二十度六分（マカジキ八本、メバチ二本漁獲）（第三）鹽谷崎東微南四百九十浬水溫二十度四分（マカジキ一本、メバチ二本、ヨシキリ五本漁獲）（第四）鹽谷崎本微南四百九十二浬水溫二十一度（メバチ三本、メカジキ八本、マカジキ一本、トンボ二本、ヨシキリ四本漁獲）（第五）鹽谷崎東四分ノ三南四百六十浬水溫二十度三分（マカジキ二本、メバチ一本、メカジキ一本、ヨシキリ十本漁獲）（第六）鹽谷崎東微南八分ノ一南五百十浬水溫二十度七分（メカジキ八本、ヨシキリ十五本漁獲）（第七）鹽谷崎東四分ノ三四百九十一浬水溫十八度五分（メカヂキ三本、トンボ一本、カッサメ二本、ヨシキリ十五本漁獲）（第八）鹽谷崎正東五百二十六浬水溫十七度五分（メバチ一本、トンボ八十五本、ヨシキリ十五本、カツオ二本漁獲）

尙同航海は鹽谷正東二百浬橫斷觀測の豫定であつたが觀測中採水器落失のため觀測を中止し漁場調査に移つたものである

保險金欲しさの 放火は陪審へ
遠藤忠治の豫審決定

去月十三日午前零時頃平町久保町大工武石常右衛門方へ放火し五千圓の火災保險金を詐取せんとした同町二七精米業遠藤忠治（三二）に係る事件は平支部荒井豫審判事により審理中の處昨十五日終結有罪と決定陪審公判に附されたが同人は相當の財產あるに拘らず常に母との折合惡く業務資金の欠乏を感じ遂に大それた考をするに至つたものであると

磐中人國記 十五
赤井嶽男記

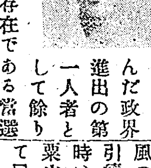
△第二回生のB

工科方面を志した人に大阪高工を出てから湯本で亞鉛瓦斯會社などに關係したが事些か豫期に反して間も無く之を廢め今では台北煉瓦會社の技師として圓山工場に勤めてゐる片寄留次郎氏（草野）と東京工科學校を卒業し磐城炭鑛から今では畠違ひな農工銀行の平支店に勤めてゐる佐藤要一郎氏（大浦）があり、農科方面では永らく北海道廳の技師として產業部內に重きをなし其後橫濱市役所に入り中央卸賣市場長として市の勸業課長を兼ねてゐる北大農學士で前揭逸郞氏の弟加藤木保次氏（平町）が從四位勳四等の市理事として光つて居る。

×

若し夫れ軍部を見るなれば豫滿海軍中佐として廣島市に居をトし未だ老い込む年齒でも無いのに悠々自適白雲去來の恩給生活をしてゐる植田の片山（舊姓內藤）義治氏と士官學校出の步兵中尉小野友吉氏（舊姓木村大野出身）と之も此際斷然軍部に入れる事を以て一段陸離たる光彩を放つ元陸軍參與官代議士問屋の昌ちやん事比佐昌平氏（湯本町）がある。

磐中の誇り比佐代議士の事ども



磐中が生んだ政界進出の第一人者として餘りに輝かしい存在である當選四回の比佐代議士に就ては昨年五月氏の陸軍參與官になつた當時本紙に書いた人國記子の『俺が國さの陸軍參與官』を抄錄する事を以て便宜とする。

――問屋の昌ちやんが陸軍參與官になつた。大正十三年五月『時はいま天が下知る皐月かな』とばかり英姿颯爽と乘り出して新綠薰る風の初舞台を踏んで以來、引續いて而も當選三回（當時はそうであつた）仲間の栗山氏あたりに先を越されて民政黨のオールスターキャストに一と役を當てがはれず一見啼かず蜚ばずの地味な步み方こそして來たが問屋の昌ちやんたるもの覺に一部の誤り觀てゐた如き所謂コンモン、メンバーでは無かつた。

×

昌ちやん……と云つた處で別段平町某代書先生の所謂人權を粉碎し名譽を破損（告訴狀の一齣）する事にもなるまいが以下『參與官』と云ふ事にして本論へ。

――參與官の政治家志望は日露戰爭當時の磐中時代からである。而して政治家の最大必要武器として彼は談笑の座右竊かに鴆毒を置くの策略よりも寧ろ三寸不爛の舌頭よく鬼神をも哭かしむる雄辯術を擇むだ（此項つゞく寫眞は磐中時代の比佐代議士）

握り飯を割つて 貧友と遠足を樂む
第一兒童に隱れた美談

平第一小學校では今十六日午前九時から遠足を行つたが湯本町縣社溫泉神社行きの兒童中樂しい握り飯が持參せぬ者があつたのを一朋友が同情し辯當なしで濟む一年生の遠足に加はり一つの握り飯を等分し二人で食べて歸つたと近來涙ぐましい話である

[redacted]不起訴 決定
名譽毀損で某を告訴か？

[redacted]は過般來某事件に關し平檢事局に於て取調べを受けた事あり[redacted]が此程證據不充分として不起訴に決定されたが、尙ほ之が爲あらぬ風評を傳へられ少からず迷惑した氏は之れが根源を作つた某氏に對し名譽毀損の訴へをするらしいと

排虫者四百六十三名
第二兒女の海人草服用成績

平第二小學校では去る八、九の兩日全校生徒千四百六十九名に海人草を服用せしめ結果を調査したが排虫者は約三分の一の四百六十三名で何れも蛔虫に冒されてゐる事が判明した

總虫數一、二四六　一人平均二、七　最多數二三

尙ほ該生徒には身体虛弱成績不良のものが多いので家庭に於ても時々マクニン、セメンエン等を服用せしめられ度いと

。。。。豐間村會 二十日午前九時から開催、追加豫算、工事設計變更、遭難者遺族救濟、遭難漁業者の更生等に就て協議する

未納罰金五千圓
清算期の平檢事局で 三百名に督促を發す

平檢事局に於ける罰金未納者は三百名この金額五千圓近くの巨額に達し月末迄に整理すべく此程夫々督促狀を發したが主なる事件は賭博、傷害、漁業法違反、業務上過失等である

長塚疑獄事件 豫審に附さる

双葉郡長塚村貯水池疑獄事件につき平檢事局では小林檢事取調の結果前村長江口榮一（五三）前助役安井賀（四五）の兩名を詐欺業務橫領で平刑務所に收容し昨十四日豫審に附された

苦し紛れの 密漁者增加
今月中既に五名

底敷網漁業者中最近郡下各濱の不漁の爲めに往々禁止區に於て密漁をなすものがめつ切り增加し今月に入つて以來平檢事局で罰金を言渡された

江名濱、吉田源二、吉田爲吉、吉田貞次郎、江名新町渡邊遂治、雨澤龜吉以上五名の外遠く茨城縣沖合、金華山の方面に亙り目下取調中の者數名ある、因に罰金は初犯五十圓再犯倍額であると

前借を踏む
情夫と逃走の途中 平署員に捕はる

岩手縣一の關町千厩町料理店壽方酌婦茨城縣土浦町生れ賀之助養女沼田ノブ（二五）は前借二百五十圓を踏み情夫同町小野澤七六農小野寺金八（三八）と昨十五日朝郷里に戾る途中同日午後七時頃平驛で平署員が取押へ目下同署に留置中

靑訓敎練査閱

郡內靑訓所敎練査閱は明年二月から福島聯隊區中村貫一步兵少佐に依て行はれるが日割は次の如く變更決定した

（二日）田人（三日）川部、勿來（四日）山田、植田、錦（五日）泉、渡邊（六日）小名、玉川（七日）鹿島、江名、（八日）高久、豐間（九日）夏井、神谷（十日）赤井、小川（十一日）飯野平窪（十二日）平、飯野（十三日）好間、內郷（十四日）箕輪（十五日）湯本磐崎（十六日）入、上遠野

〇〇〇〇磐女弓道納會　二十一日道場に於て行ふ

。。暴行。　平町字之內深谷喜八方坂本三郎（二四）外三名は昨十五日午後十時頃南町料理店入船事服部セツ方で素見中些細な事から激昂して暴行を働き平署員に取押へられ嚴重說諭の上今朝放還さる

。。隔離。　平窪村平窪木澤矢太郎（一〇）は昨十五日デフテリアと決定隔離された

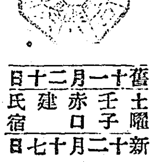
。。。。列車妨害へ求刑　列車妨害犯人勿來町大字四澤秋元道政（三三）は六年鯉淵秋之助（二七）は三年の各懲役を今十六日平支部に於て上田檢事から求刑された、言渡しは二十三日午前八時

おひろめ　昨日榮家から東京新下りの喜代榮（一七）がお披露目、早速歲末歲首の活躍に就て先輩榮との間に打合せが出來たと

平町慶弔錄

△婚姻　正內町一四磐崎村西鄕忠多三七七　井出賢治（三六）內鄕村御まや上宿九　ヤマ郡晉麥町若宮植橫道下乙七七　後藤カノ（二四）

△出生　正內町十四井出賢治長男憲雄



舊十一月二十日　土曜　壬子　赤口　建　氐宿　新十二月十七日

諸判定應需　東京市本鄕區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神館

▲一白の人　大志をいだき目的に向ひて閧たくに努むるに吉▲二黑の人　惡評を立てられて行動ににぶりを生ずべき日▲三碧の人　忍苦は一時に過ぎず幸慶到來を待つに吉し▲四綠の人　目上の反感は出世の道をふさぐ惜さを失ふな▲五黃の人　一瞬の喜びに滿足すれば後の勞苦は繼續す▲六白の人　細なきづより全身に毒の廻る如し經視すな▲七赤の人　進退共に損害を免れざるべし普請轉宅亦凶▲八白の人　紛糾さく雜の日定業を守りて他に動かぬが吉▲九紫の人　堅實に努力する所あらば事業おのづから開展の日

移轉御披露

各位益々御清適奉賀候、今回御贔負樣の御勸めにより三好家向の新築家屋に移轉致し清潔と勉强をモツトーとして營業致候間舊に倍し御引立を仰ぎ度奉懇願候也。

平町新田町廿六
料理店　壽遊亭主
電三九一

金銀高價買入
純金九圓十錢 買入

大判	廿二金	七圓七〇錢
	廿金	六圓七〇錢
	十八金	五圓七〇錢
小判	金歯	六圓七〇錢

以上一匁ニ付

尙相當御持合せの方には特に御相談致します！

金光堂時計店　平五電一九五

何が梅月をそうさせたか
其れは時代の要求である。

斷然値下斷行

上酒	十二錢
ビール	卅五錢
おでん一人前	十五錢
定食 おでん茶めし おしんこ付	廿五錢
天どん	十五錢
親子丼	二十錢
牛めし	十錢
カレーライス	十錢
カレーうどん	十錢
支那そば	十錢
うどん きそば	五錢
しるこ	七錢
ぞうに	八錢

其の他季節向料理何でも市價の五割安

平驛前通り
梅月食堂